

「新たな国民病」 慢性腎臓病知って

栃木の医師ら啓発動画

「新たな国民病」と呼ばれる割に認知度が低い慢性腎臓病(CKD)について知ってもらおうと、自治医科大学(栃木県下野市)の教授らでつくるCKD啓発動画研究会が、CKDの基礎知識を伝える動画をこつこつと。動画投稿サイト「ユーチューブ」などで公開している。

CKDは、軽度のタパク尿から、人工透析が必要な腎不全までを含む慢性腎臓疾患の総称。心筋梗塞や脳卒中を併発する危険性も指摘されるが、末期近くまで自覚症状がないため、ほとんどの患者は自分が病気であることを知らないという。国内の推定患者は約千三百万人(成人の八人

に一人とされる。同研究会が、首都圏の街頭でアンケートを実施したところ、「メタボリック症候群を聞いたことがある」と答えた人が88%いたのに対し、CKDを聞いたことがある人はわずか4%。特に十代はゼロで、「結果ががくせんとした」(安藤康宏代表幹事)。

若い世代がCKDのことをよく知り、生活習慣を見直せば、将来的に患者を大幅に減らせるとの狙いから、主に若者をターゲットに啓発動画をつくった。

動画は、アニメ風の「入門編」(二分三十秒)、CKDについて詳しく解説した「解説編」(十一分)、女性を意識した「こぢむる編」(二分余)など四本。CKDの怖さ、早期発見・早期治療の必要性を分かりやすく解説している。動画は同研究会のホームページが、ユーチューブで「CKD啓発動画」と入力して検索する。